

「村は人也」
全村民で子育てする村を
目指して

えんどう ゆうこう
遠藤 雄幸

川内村長

昭和30年（1955）、川内村生まれ。
1977年、福島大学教育学部卒業。卒業後は父が経営する金物建材販売
（有限会社わたや）に勤務。1999年4月～2000年4月、川内村村議会議員。
2004年4月より、5期にわたり、川内村長を務める。

「逃げる」のは簡単なのに、「戻る」のは、どうしてこんなにも
難しいのだろう。自分のふるさと、自分の家に戻るだけなのに。
そう思いながら、震災後の村づくりを進めてきました。
現在の村民帰還率は約80%。子どもの数は113人まで増えましたが、
まだまだ震災前の人数には戻っていません。
川内村で、安心して子育てしてもらうためには、どうしたらいいのか。
結婚祝い金に出産祝い金、保育料の無償化、保育所から中学校までの給食費の無償化、
安価で受講できる村営の学習塾、村外へ進学する高校生への支援、
ひとり親家庭への支援など、思いつく限りの施策を進めてきました。
2021年には、保育所を併設した小中一貫校を立ち上げ、0歳から15歳までの
子どもを見守れる環境を完成させます。企業誘致や自前の工場建設、新たな
産業づくりなど、安定した生活に欠かせない雇用の創出にも取り組んできました。
目指すのは「全村民で子育てする村」。
一方、村内に住所があっても村内の学校に通ったことがない子どももいます。
そうした子どもたちに、ふるさとのアイデンティティーをどう伝えていくのか。
難しい問題も残っています。



2021年4月に開校する義務教育学校 川内小中学園
（後期課程増築の完成イメージ）